

○東亜大学学則

(学部、学科の教育研究上の目的)

第2条の2 本学の学部、学科の教育研究上の目的は、次項以下のとおりとする。

- 1 医療学部は、保健・医療・福祉の専門的知識及び技術並びに豊かな人間性を養い、広く社会で活躍できる人材を育成することを目的とする。
  - (1) 医療工学科は、保健・医療・福祉の分野において、他の医療人などと協同して活動することができる、実践的応用力を備えた人材を養成することを目的とする。
  - (2) 健康栄養学科は、食生活における栄養を的確に評価し、適切かつ高度な指導ができる、実践的応用力を備えた人材を養成することを目的とする。
- 2 人間科学部は、人間の心と体について理解し、さらに、人間の営為である文化や社会を理解する能力を養い、他者を思いやりながらよりよく生きるための実践力を備えた人材を養成することを目的とする。
  - (1) 心理臨床・子ども学科は、心理学、教育学、保育学を中心として人間の心理社会的、身体的発達過程を科学的に理解し、広く教育と人間理解に関わる知識を備えた人材を養成します。
  - (2) 国際交流学科は、観光経営や異文化理解に関する知識を学び、語学力などの実践力を身につけ、これからの国際交流の場で活躍できる人材を養成します。
  - (3) スポーツ健康学科は、幅広い知識と教養を身につけ、学校や社会において体育・スポーツ振興、健康及び体力増進の分野で貢献できる人材を養成する。
- 3 芸術学部は、豊かな感性及び幅広い知識を持ち、社会において様々な分野に対応できる、創造力と技術力を備えた人材を養成することを目的とする。
  - (1) アート・デザイン学科は、人間教育を軸とし、もの作りを体験する中で、理性と感性の統合の観点から社会に貢献できる人材を養成する。
  - (2) トータルビューティ学科は、幅広い教養と芸術の知識を持ち、社会の変化に対応できる、理容美容等の専門的技術を身につけた人材の養成を目的とする。

## 別表 1

### 人材養成に関する目的およびその他の教育研究上の目的

#### 【総合学術研究科 医療科学専攻】

近年、医療における技術的進歩は目覚ましく、チーム医療においては医療人全体の質的な向上が社会的要請である。コメディカル分野においてもさらに細分化され、それぞれの分野で高度の知識と技能を備えた人材の育成が望まれている。とくにそれぞれの教育を受けた研究者が、その分野での指導者になることが期待されている。医療科学の基礎の上にそれぞれの専門を極めた人材を養成し社会に還元することを専攻全体の目標とする。医療科学基礎分野では生命科学、基礎医学への全般的な理解を深めさせる。医療工学分野においては生体工学、生体計測機器等の工学的側面を扱う。医療栄養分野においては最近関心の高い予防医学と共に予防介護に関連の深い医療栄養学を深化・発展させ、さらに広く国民に栄養学を啓蒙することが直近の課題となる。

#### <博士前期課程>

##### 【学位の授与方針（ディプロマ・ポリシー）】

医療科学専攻では医療科学の基礎を修め、さらに各分野および隣接関連分野における学識を有し、医療に貢献できる能力を身につけたものに対し、修士（医療科学）が授与される。

##### 【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

医療科学専攻では医療科学分野]を基礎にとし、[医療工学分野]と[栄養学分野]のどちらかを拠点とし、科学的思考のできるコメディカルスタッフを養成する教育課程を編成している。

##### 【入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）】

本専攻では、コメディカルスタッフとして医療に貢献する意欲のある国内大学・海外大学の出身者にくわえ、社会人を受け入れる。

#### <博士後期課程>

##### 【学位の授与方針（ディプロマ・ポリシー）】

医療科学専攻における教育課程を修め、各分野における高度な専門知識・技能を習得した結果、科学的思考のできるコメディカルスタッフとして、医療および教育の現場で指導的立場に立てる能力を身につけたものに対し、その成果を学術論文にまとめることを求める。論文審査に合格した者に対し、博士(医療科学)の学位を授与する。

##### 【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

進歩していく医療技術に対応できる人材を養成するために、医学、工学、栄養学を総合的に学修するとともに、高度な研究指導を受けられるような教育課程を編成している。

##### 【入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）】

研究対象に対し強い探究心を持ち博士前期課程を修了した者のほか、病院・研究機関・大学等の職員、研究員、教員等として一定の研究実績がある社会人を受け入れる。

#### 【総合学術研究科 人間科学専攻】

人間科学専攻では「人間とは何か」について考え、その答えを探求するための方途として複数の学問領域を教授する。人間学領域においては、人間の精神的営為について、哲学・倫理学の視点から探求する。心理学領域では認知行動・生理心理の観点から人間の精神活動を考える。健康・スポーツ領域では、健康科学・スポーツ科学・体育学の視点から、人間の身体的メカニズムを解析することを目的とする。さらに東アジア文化領域では、日本を含む東アジア地域の文化と社会について、文化人類学・歴史学・経済学・観光学の視点から研究を進める。本専攻は、人間をめぐる多様な学問的視点を相互に関連させ、幅広く探求することによって人間を複眼的に眺めることのできる人材を育成することを目標とする。

## <博士前期課程>

### [学位の授与方針 (ディプロマ・ポリシー)]

人間科学専攻における教育課程を修め、人間をめぐる複数の学問領域が提示する複眼的な人間像を理解したものに対し、修士 (人間科学) を授与する。

### [教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)]

人間科学専攻では幅広い学問的視点から人間を探求することを目指し、人間学・心理学・健康科学・スポーツ学・東アジア地域学の諸領域を教育する。それぞれの分野は、単独で学生教育に携わるのではなく、他分野科目の積極的履修を学生に求めることによって相互に密接に関連している。本専攻では、複数の学問領域が提示する人間像を複眼的に眺め、統合的な人間理解ができる人材の教育をおこなう。

### [入学者の受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー)]

本専攻では、以下のような学生を受け入れる。

1. 人間の心と体に関する諸問題に対し、常に高い関心を持っている人
2. 人間の心と体に関する問題点を自ら見出し、その解明、解決に向けて、意欲的計画的に研究しようとする人
3. 国内大学・海外大学を卒業したものにくわえ、人間を総合的にとらえる視点を確立し、もって自らの立脚する職場や社会に広く貢献することに意欲的な社会人

## <博士後期課程>

### [学位の授与方針 (ディプロマ・ポリシー)]

人間科学専攻における教育課程を修め、人間をめぐる複数の学問領域が提示する統合的な人間像を確立し、各領域における高度な専門知識・技能を習得した結果、研究者として自立した研究活動をおこなう能力を身につけた者に対し、その学問的探究の成果を学術論文にまとめることを求める。論文審査に合格した者に対し、博士 (人間科学) の学位を授与する。

### [教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)]

多様な学問的視点を相互に関連させ、幅広い視点から人間を探求し、統合的な人間理解の確立を目的とする。学生は、人間学・心理学・健康科学・スポーツ学・東アジア地域学の諸領域における専門的な知識の教授を受け、高度な研究指導を受けうる事が出来る。自らが専門的に探求しようとする領域にくわえて、他分野についても最新の知見を学び、研究者として自立するための広く深い学問的基礎を構築する。

### [入学者の受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー)]

1. 人間の心と体に関する諸問題に対し、常に高い関心を持っている人
2. 人間の心と体に関する問題点を自ら見出し、その解明、解決に向けて、意欲的計画的に研究しようとする人
3. 博士前期課程を修了した者のほか、企業・研究機関・大学等の職員、研究員、教員等として、人間に関わる研究・教育に関わった経験があり一定の実績を上げた社会人

## 【総合学術研究科 デザイン専攻】

本専攻では総合的な思考や創造性を培い未来社会の養成に応える人材の育成することを目的としている。そのためデザイン専攻に於ける教育課程領域を美学・美術史分野、立体・空間デザイン分野、視覚情報・映像、絵画デザイン分野について教育、研究指導を行っている。前期課程は学部の専門的教育との繋がりを考察しデザイン全般、視覚伝達、造形美術、幅広いデザイン領域などに関わるクリエイターの人材育成を目標に高度な教育を行う。後期課程では総合的に高い次元のデザインや美術、芸術を考え、情報メディア社会の未来のあり方を研究し作品制作や発信出来る人材を養成する。

## <博士前期課程>

### [学位の授与方針 (ディプロマ・ポリシー)]

博士前期課程では2カ年以上在席して36単以上、美学美術史、演習Ⅰ、Ⅱを習得し修士論文又は特定の課題（作品等）の審査、修了作品展覧会をもって修士（芸術）の学位を取得する。

#### 【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

実技作品制作を中心とした現場で活かせる技術の習得が出来て幅広い芸術の知識と経験を目指しデザイン全般、視覚伝達、造形美術、幅広いデザイン領域で実践的、横断的な教育プログラムを編成している。

#### 【入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）】

総合的な思考を養い、デザイン・美術のための哲学や知識及び歴史を研究することを目標に本学、他大学の芸術系の卒業生、民間企業、外国人留学生、一般社会人など多様な人材を受け入れる。

#### <博士後期課程>

#### 【学位の授与方針（ディプロマ・ポリシー）】

後期博士課程では3年以上在席して所定の単位を修得し必要な研究指導を受け、学位論文（指導教員の指導により作品を加えることができる）の審査及び博士課程展覧会をもって博士の学位を授与する。

#### 【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

デザインを多角化した観点からとらえ、様々な手法による表現的方法を発表する人材の育成や後進の指導が出来る人をめざし、総合的にデザインや美術、芸術を考え、共通科目や研究領域に応じた特別研究で教育編成している。

#### 【入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）】

現代芸術及びデザイン・美術のための次元の高い哲学や知識及び歴史を研究することを目標に本学、他大学の芸術系の卒業生、民間企業、外国人留学生、一般社会人など多様な人材を受け入れる。

#### 【総合学術研究科 臨床心理学専攻】

臨床心理学専攻では、臨床現場で高い専門性を発揮することができる臨床心理士、及び臨床心理士養成者を養成する。前期博士課程では、医療、教育、福祉など多様な領域の臨床現場で活躍出来る臨床心理士を養成する。臨床心理士に必要とされる技能、1「臨床心理査定」・2「臨床心理面接」・3「臨床心理学的地域援助」・4「1～3に関する研究」を高度に習得し、臨床現場で力を発揮できる臨床心理士を養成する。後期博士課程では、自らの専門を深く追求し、研究することができ、且つ、臨床心理士を養成する指導者として教育を行うことができる教員を養成する。高い専門性を持ち、臨床家及び教育者として、社会に貢献する人材を養成する。

#### <博士前期課程>

#### 【学位の授与方針（ディプロマ・ポリシー）】

臨床心理学専攻では、修士（臨床心理学）が授与される。修士修了者は、財団法人日本臨床心理士資格認定協会の臨床心理士資格試験を、第一種指定大学院修了者として、臨床心理士資格を取得することができる。

#### 【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

臨床心理学専攻では、財団法人日本臨床心理士資格認定協会の基準に基づき、必修科目、選択必修科目及び、種々の臨床実践科目を総合的に受講することが出来る。大学院付属の臨床心理相談研究センター及び、様々な臨床現場での実習を通して、実践的な臨床的な技術を養成する。

#### 【入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）】

心理的支援を行う高い志を持ち、自己理解や他者理解を行うことに強い関心があり、向学心を強く持つ者を受け入れる。臨床心理現場で、臨床心理士として専門的な支援ができる資質を重視する。他大学卒業者、及び、社会人にも積極的に門戸を開いている。

## <博士後期課程>

### [学位の授与方針 (ディプロマ・ポリシー)]

臨床心理学専攻では、博士(臨床心理学)が授与される。博士の学位は、研究者として高度な専門的な知識、及び高い研究能力を有していると認められるものに授与される。論文審査及び公聴会による口頭試問により、最終的に学位の授与は決定される。

### [教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)]

臨床心理学特別研究1、2、3では、それぞれ学会発表、投稿論文の作成、博士論文の作成の目的を設け、段階的に博士論文作成への指導を行う。演習形式により個々人の研究の進展度に合わせ、研究、論文作成の指導を行う。

### [入学者の受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー)]

臨床心理士の養成の教育者として高い学識を持ち、研究能力及び臨床能力を有し、専門家養成において教育的に力を発揮できる者を受け入れる。入学選抜は、口頭試問により行い、これまでの研究業績及び、研究遂行能力の審査を行う。他大学出身者、及び、社会人にも積極的に門戸を開いている。

## 【通信制大学院 総合学術研究科 法学専攻】

法学専攻は、専門的職業を遂行する上で専門的法律知識が要求され、かつ法的思考方法が不可欠な社会的職業分野において十分に通用する、高度の法律的素養を備えた専門的職業人を育成することを目的とする。弁護士等の法律専門家の養成を目的とするロースクールとは異なる本専攻が育成しようとする人材は、民法法及び公法に関する基本的な専門的法律知識を有し、複雑化し変化していく社会に対応できるだけの法的思考能力を身に付けてそれぞれの専門分野で活躍できる専門的職業人である。

## <修士課程>

### [学位の授与方針 (ディプロマ・ポリシー)]

法学専攻では、ブロードバンド放送の講義(7科目)により、民法法及び公法学における学説・判例を通じて、基本的な法理論と法制度について学ぶ。この段階で、基礎となる専門的法律知識を習得しなければならない。次いで、修士論文指導において、指導教授の指導のもとに、資料を調査し、自ら考え、論理を構築し、法的文書(論文)を書くことによって、法的思考方法が身に付いていく。研究論文としての修士論文の審査基準はかなり厳しい。

### [教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)]

本専攻では、社会において活躍できる高度な法律的専門知識を有する職業人を育成することを主要な目的とするから、それにふさわしい講義を展開する。時代の変革に伴い、民法法・公法いずれの分野においてもかなりの法改正を受け、また判例の集積があり、そのため講義で話すべき内容も非常に増えている。しかし、時間の制約もあって各分野とも重点的に内容を絞らざるを得ない。その意味でここでの講義は高度な専門的知識の獲得という点からすると、いわば最低限に相当するものであり、法学専攻で学ぶ者は全員これをマスターするように心がけなければならない。他方、各自の専攻科目という視点からは、ここでの講義より高いレベルの研究をし、修士論文に結実させる必要がある。場合によっては税法とのからみで学際的研究も必要となる。

### [入学者の受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー)]

本専攻へ入学する者のほとんどは、すでに税理士事務所などに職を得ており、入学後もその職に就いている。しかし、自ら選択しかなりの競争率を突破して本学に入学した入学者がこの機会を最大限に有効に利用するには、入学者は、大学院生として積極的に学問研究をするという意志と姿勢を保ち続けることが必要である。過去に現状に妥協し修士論文を完成できずに退学したいくつかの不幸な例がある。次に、法律学は、概念、論理構成などにおいて、日常生活のそれとはやや異なり理解し難いところがある。そこで、法律学の勉学においては、法律用語(概念)、法律の論理の組み立て(論理構成)などについて理解し、習熟し、自ら法的分析と法的構成ができるように心がけておくべきである。良い論文を完成するには、法的思考能力を涵養しておかなければならない。通信制大学院であるために、日常的に指導教授の指導を得

られないというマイナスがあるが、スクーリングやインターネットを最大限に活用してマイナス面をプラスに転ずるようにして欲しい。そのような例は少なくない。

#### 【通信制大学院 総合学術研究科 人間科学専攻】

人間科学専攻は、人間に関する様々な学問領域を学修することによって、自らの専門分野を深化させつつも、人間を総合的に捉える視点を持った人材を養成することを目的とする。

##### <修士課程>

#### 【学位の授与方針（ディプロマ・ポリシー）】

人間科学専攻における教育課程を修め、人間をめぐる複数の学問領域が提示する複眼的な人間像を理解したものに對し、修士（人間科学）を授与する。

#### 【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

人間科学専攻では幅広い学問的視点から人間を探求することを目指し、人間学・心理学・健康科学・スポーツ学・東アジア地域学の諸領域を教育する。それぞれの分野は、単独で学生教育に携わるのではなく、他分野科目の積極的履修を学生に求めることによって相互に密接に関連している。本専攻では、複数の学問領域が提示する人間像を複眼的に眺め、統合的な人間理解ができる人材の教育をおこなう。

#### 【入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）】

本専攻では、以下のような学生を受け入れる。

1. 人間を取り巻く諸問題に對し、常に高い関心を持っている人
2. 人間を取り巻く諸問題から、自らの専門的知識に基づいて新たな課題を析出し、意欲的計画的に研究しようとする人
3. 国内大学・海外大学を卒業した者にくわえ、人間を総合的にとらえる視点を有し、もって自らの立脚する職場や社会に広く貢献することに意欲的な社会人

#### 【通信制大学院 総合学術研究科 デザイン専攻】

現場で活躍するデザイナーやアーティスト、教育者や美容科学の研究者などを対象として通信教育の中で総合的な思考や創造性を養い、デザイン・美術分野での未来社会の要請に応える人材の育成を目標としている。

##### <修士課程>

#### 【学位の授与方針（ディプロマ・ポリシー）】

修士課程では2カ年以上在席して30単以上習得し修士論文又は特定の課題（作品等）の審査、修了作品展覧会をもって修士（芸術）の学位を取得する。また所定の開設科目を修得した者には美容科学プログラム修了証を発行する。

#### 【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

実技制作や課題提出などでクオリティの高い技術の習得や研究分野での制作発表が出来ることを目標としスクーリングの実施などで実践的なテクニックや高度な研究の追求を目指す。また美容プログラムも取ることが出来、生活の中でトータルなビューティーのエッセンスを身に付ける。

#### 【入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）】

高度情報化、環境問題などさまざまな諸相を示すデザイン・美術の環境の中で総合芸術を網羅した社会に提起、発表出来る人材の育成を目指すことを目標に本学、他大学の芸術系の卒業生、民間企業、外国人留学生、一般社会人など多様な人材を受け入れる。